12.　ガリウムシンチグラフィにおける骨・骨髄集積症例に関する検討

中島　鉄夫　外山　貴士　Biray E. Caner
木村　浩彦　松田　豪　松下　照雄
目崎　行雄　友井　正弘　林　信成
小鳥　輝男　石井　靖　（福井医大・放）

症例1：早期胃癌の播種性骨髄転移．症例2：緑色腫を合併した骨髄線維症．症例3：原発性骨髄線維症（悪性細胞は非確認）．症例4：悪性リンパ腫の化学療法前後（化学療法後，骨・骨髄描画増強）．症例5：FUOで治療的診断としての抗結核療法にて下熱．熱発時骨・骨髄に強く集積したガリウムが下熱後消失．以上5症例を提示した．悪性疾患以外でも比較的強いガリウムの骨・骨髄集積をみとめる症例はたびたび経験されるが，悪性疾患を否定するためには，MRI，骨スキャンなどの他の画像診断手技や臨床情報を総合して診断する必要があると考えられた．

13.　Soft tissue tumor における Ga-67 citrate 腫瘍シンチグラフィの検出能

黒沢　太平　今枝　孟義　関　松蔵
曽根　康博　飯沼　元　森　省一郎
土井　偉誉　（岐阜大・放）
武内　章二　（同・整形）

整形外科領域の軟部腫瘍については，非侵襲的方法による良悪性の鑑別が求められている．その一手段としての ^{67}Ga-citrate 腫瘍シンチグラフィの集積率・集積度を検討した．対象は組織診断の確定した53症例である．集積度を（−）（＋）（＋＋）の3段階で評価した．良性腫瘍では（−）が28例，（＋）が9例，（＋＋）が2例であり，集積率28％であった．一方悪性腫瘍では（−）が2例，（＋）が1例，（＋＋）が11例で，集積率は86％であった．集積率，集積度ともに悪性腫瘍に高い傾向を認め，良悪性の鑑別にある程度有用と思われた．良性腫瘍では，Neurinoma, Neurofibroma, Desmoid で集積率が高かった．^{67}Ga シンチグラフィによる全身検索により初めて再発病巣が検出しえた3例も経験した．

14.　鼻・副鼻腔領域における Ga-67 scan の臨床的意義と限界

東　光太郎　山之内梅節　高瀬　秀子
関　宏恭　大口　学　宝田　陽
奥村　哲郎　宮村　利雄　山本　達
（金沢医大・放）
山下　公一　（同・耳鼻）

鼻・副鼻腔領域の疾患を有する患者23例に Ga-67 scan を施行し，その臨床的意義と限界について検討した．病変部への Ga-67 集積の程度は，鼻腔の Ga-67 濃度を基準として陰性，弱陽性，陽性，強陽性の4段階に分類した．その結果，上顎癌9例を含む13例の悪性腫瘍は，いずれも陽性あるいは強陽性であった．嚢胞性疾患のうち術後性上顎嚢胞2例，mucocele 3例はいずれも陰性であるのに対し，pyocele 2例は強陽性であった．また炎症性疾患のうち慢性副鼻腔炎2例は弱陽性であるのに対し，急性副鼻腔炎1例は強陽性であった．これらのことより，Ga-67 scan は悪性腫瘍と感染を伴わない嚢胞性疾患，および悪性腫瘍と慢性副鼻腔炎との鑑別の一助となると思われた．また，副鼻腔炎の活動性の判定および mucocele と pyocele との鑑別に有用と思われた．しかし，悪性腫瘍と活動性炎症性疾患との鑑別は不可能であり，この点が Ga-67 scan の限界と思われた．

15.　Pb-203 chloride のがん親和性

安東　醇　李　少林　安東　逸子
真田　茂　平木辰之助　（金沢大・医短）
久田　欣一　（金沢大・核）
井上　照夫　黒崎　浩巳
（㈱第一ラジオアイソトープ研究所）

Pb-203 は半減期52時間で EC 崩壊し，安定な ^{203}Tl となる．そのさい100崩壊あたり 279 keV, 401 keV, 680 keV の γ 線をおのおの 80.8 個，3.8 個，0.8 個の割合で放射する．担吉田肉腫結節ラットと炎症惹起ラットに塩化鉛 (Pb-203) 溶液を静注して腫瘍，炎症および臓器組織への Pb-203 の取り込み率を求めた．これらの値を ^{67}Ga-citrate の値と比較した．その結果，Pb-203 の腫瘍への取り込み率は ^{67}Ga の約半分であり，炎症巣，筋肉への取り込み率も ^{67}Ga に比較して非常に小さかった．しか

Presented by Medical*Online